

もし徴兵令が布かれたら

— 対談・若き世代の眞情 —

三島 由紀夫 (作家)

鶴田 浩二 (俳優)

議会政治の不信がファッショを生む！

記者 最初に一つ、二十代の青年たちの代弁者として、現代世相を呵責なきまでに批判してもらいたいと思いますが、

三島 うん、云いたい事は一杯あるが、一体僕らは本当の意味で二十代の代弁者たり得るのかい？ どうだい、鶴田君は年齢いくつになったの？

鶴田 二十八才と九ヶ月ですよ。

三島 すると、僕が二十九才と三ヶ月だから少し兄貴だな。

鶴田 いづれにしても、我々は二十代でも晩年の方だ。とても代弁者にはなれそうにない。

三島 二十代の一人には違いないと云うところで、勝手に云いたいことを云わして貰おう。先ず再軍備論だが、どうも世間ではこの再軍備論とファシズムをごっちゃに考えてるらしいんだ。右翼、左翼なんていう言葉で片付けているが、ファシズムなんぞは社会民主主義の子供だ。パーム・ダッドという印度人が書いた、「ファシズム論」によると、一九三五年までの暴力活動はファシズムではなかった、と云っている。わかり易くいえば、ファシズムは共産党の議席占拠後に反動として生まれたものだ云うんだな。最近の風潮は、それらが收拾のつかないほど困惑している。

鶴田 まったく議会も財界も、やれ汚職だ、疑獄だと騒ぐだけで、我々から見たら何やってるんだって憤慨したくなることばかりだ。若い者だけをアプレ呼ばわりし、耐乏生活を強制しておきながら、自分たちだけ陰で贅沢三昧をやっていたなんていうのは戦時中の軍人がやった横暴さを思い出させられるなあ。

三島 議会政治を世論が見放してしまうと、大変な事になるよ。民主主義は一ぺんに崩壊する危険があるからな。議会主義の軽視が激化したあまりに、左翼革命も失敗したと速断した資本家が、議会を放棄し、ファシズムへ力を貸して、一挙に社会改良をやろうとする。

鶴田 暴力革命ですか？

三島 さあ、それはわからないが、とにかく現代はあらゆる面で危機だということが云えると思う。一步誤れば国を亡ぼすことになる。その点戦時中は、負けるか勝つか

のどっちかだし、目標がはっきりしていた。現代はそれがない。各人目標を作ったり、発見したと思って右往左往しているといったところだろう。

いゝ意味での軍隊は必要か？

鶴田　じゃ三島さん、再軍備に対しては賛成なの？

三島　世間では僕を、ファッションだと云ってるよ。再軍備賛成と云ったって、手放しで歓迎するわけじゃない。たしか、君は再軍備反対だったね。

鶴田　あゝ絶対反対だな。先日、某新聞の座談会で佐田君（啓二）、根上淳君三人で話したんだが、佐田君は「いゝ意味での軍隊は必要だ」と云うし、根上君は「軍隊は必要な悪」だって云うんですよ。僕は反対だな絶対になんかいい。

三島　うん、なくて済むものならないにこしたことはない。僕も昨年「週刊朝日」の依頼で、保安大学1日入隊記を書くために見学させてもらったんだが、それまでは実のところ軍隊なのか、軍隊でないのか見当がつかなかった。行って見て驚いたな、昔の軍隊生活そっくりなんだ。反対も何もありません。現実の出来てしまったものは正しく育てるだけが問題だと思ったよ。

鶴田　でも今の日本の現情では、正しく育てるだけの経済的な基盤も、大衆の指示も得られないんじゃないですか。第一、不安定な政治しかやれない政府が、立派な軍隊など作れる筈がない。それに日本の軍国主義の復活を心配している外国がどんな風に受取るか。そりゃ、ないがいゝ。軍隊なんてもうこりごりだ。

三島　なにも戦前の日本軍隊の在り方だけが軍隊じゃないさ。保安隊を立派に育てる方法だってあると思う。まんいち軍国主義復活の懸念があるなら、民衆の輿論で監視してゆけばよい。そのための内外の批判は大いに必要だな。

鶴田　現にその懸念がある。

三島　僕はないと思う。民主主義の洗礼を受けた今の若い者が、古い復古主義の理念に従服する筈はないからね。大いに安心していゝよ。

もし徴兵令が出たら

鶴田　三島さんは軍隊の経験はないんですね。

三島　そう、僕は戦時中学徒動員でね、海軍工廠の中島飛行機製作所にかり出されてたんだ。

鶴田　僕は高田浩吉オヤジの劇団で徴兵適令期に近づくのをひやひやししながら、盛んにチャンバラ芝居で斬られ役をやってたんですが、もしも今ですね、徴兵令が再び布かれるようなことがあったらどうします？

三島　徴兵令がね、いまかい？

鶴田 そう、もしだ、布かれたら、さあ三島さんは行くか行かないか？ 断っておきますが、僕は再軍備絶対反対なんですからなあ。

三島 もし出たら……、

鶴田 さあ、どうします？

三島 ちょっと待った。もし出たにしたって僕らはもうとられないだろう。年齢からいっても、そうだろう。

鶴田 なるほど、うまく逃げましたね。然しその徴兵令が数年したら布かれるかも知れないのですよ。だから、若い世代で軍隊反対の者が多いし、軍国主義の復活を極度に恐れているんだ。

三島 その時こそ、若い世代のためし場だ。イギリスのような愛国心の旺盛なところでも、逃亡して投獄されたやつもあるんだからなあ。然し、僕は外からのはっきりした圧力を体験したことのない若い世代が、初めて各人の生死の問題として個性を試し得る絶好の機会だと思う。今の若い、僕らより一世代若い人たちは、今までそんな機会がなく放縦に育っているから、いゝ試練になる。

鶴田 だから、三島さんはファッションだと云われるんだ。何かの小説にも、戦時中の方が自由があったとか、書いておられましたね。

三島 あゝ僕らの若い世代は、戦争が起こったこと、戦争の終わったこと。この二つだけが大事件だったんだから……

鶴田 そりゃ、そうだ。戦争を批判することも、自由を探すことも知らなかった。

三島 戦後社会にほおり出された時は、いかに生きてらよいか見当もつかなかったろう。それだけに、自由に関して先入主がないから、我らの世代こそ自由を受ける資格が最もあるんだという自信だな。

鶴田 たしかにそれは、あった。アプレゲールなんて云われたものだが、こっちは怖いもの知らずだ。

脆い危ない時代はいま

三島 その点、随分無鉄砲なやつも出た。だが皆、既成の誤れる秩序へ反抗しながらも新しい秩序が欲しかったんだな。それが何か？ いまだに探しあてることが出来ないでいる。

鶴田 社会主義的な思想が相当注入されたと思うんだ。

三島 コミニズムは自分の作ったものではない。革命なんて叫んでいる若い者は、いまだに戦争中の気持と同じなんだ。自分の問題が片づかない時に、すぐ自殺を考える。それが、軍隊に入ったり、殺人を犯したり、地下運動に潜ったりする心境のいづれにも共通している。古いテロリストの心境だってないとは限らない。死ぬなら何か意味をもったもので死にたいというような本能的欲求だな、若い時は希望に溢れた時代じゃなく、実は脆い危ない時代なんだ。

鶴田 この間、長谷川一夫さんから「あなたは大変危険な時ですよ」と云われたんだ。ところがこっちはどこが危険なのか、具体的には全くわからないから、えてして先輩は若いものにそう教えるごとく云いたいんじゃないかな、そう云いながら自分にも云いきかしてるんじゃないか、と疑ったけどなるほど長谷川さんそんなつもりでいわれたのかも知れないな。

三島 そうとも云えるな。最も危険な時がいまだと思って生活してりゃ、間違いない。

鶴田 先輩の言や聞くべしと云うわけだ。

三島 その点、君は義理と人情には随分あついそうじゃないか。

鶴田 義理ですか。そんなつもりじゃないんだがな。義理人情なんて言葉がいやだ。

三島 や、こりゃ失敬、失敬、すると恩義に厚いとでもいうのか。どっちにしたって恩義ということは必要なことだよ。特に世の中は協同生活なのだから、もちつもたれつと云うわけだ。その点、僕らよりも一つ若い世代の人は可哀想だな。あるものは知的に頭だけが進歩し、遊ぶやつは遊ぶやつで極端に分れている。このまゝ成長したら、協同生活の意識も、責任感もない人間がごろごろ出来上がってしまう。その意味でも、軍隊生活というような団体生活を一度は体験させるのもよいと思うんだ。

鶴田 とんだところで、軍隊の必要性がとび出したなあ。

戦時にも自由はあった

三島 はゝはゝは……………とにかく僕は皆と一しょに生活をやったこと、戦時中の動員生活の頃の経験は楽しかった。軍隊でなくてもいゝんだ、若いうちに団体生活をした方がいいよ。古代ギリシャでは、肉体と智能を均等に鍛錬することを厳しく命じた。リッセルマンが書いているが、ギリシャの青年たちは一月か、十日に一回身体検査をうけたそうだよ。そして、お腹が出てたりすると、途端に酒の飲みすぎだと云って、禁酒を命ぜられたというから、生活の規律正しさを随分注意したらしい。

鶴田 なるほど、そりゃ面白い。男にも身体の線を注意したことが、ギリシャ彫刻の美しさと関係あるんだな。

三島 そうだよ。ギリシャの彫刻は殆ど男の裸体像だけだ。それが肉体の線だけの美しさじゃないんだよ。規律正しい古代ギリシャの生活全部が彫刻から感じられるんだ。とにかく、現代の文明はギリシャに負うところが多いんだが、ギリシャという国、小さくても立派な国家だったと感心させられることばかりだ。

鶴田 確かに生活の規律正しさは必要だと思うけど、然し、軍隊生活は滅茶苦茶に規律だけで人間を縛ったようなものだ。

三島 はゝはゝはゝは……………。そんな体験は、若いとき一度くらいあってもいゝのさ。束縛されてみなくちゃ、自由の価値もわからないんだ。近頃、僕はつくづく平和と自由という言葉ほど、呪わしい言葉はないと思ったよ。僕はむしろ戦時中の方が自由があったと思うんだ。

鶴田 こりゃ、驚いた。僕など戦時中は頭を上からおさえられたみたいで辛かった。

三島 結局人間の自由は相対的なものだからね。

戦記映画はもうこりごり

三島 ところで、君は特攻隊の映画に出ていたが、やはり戦争反対の思想を実演したい気持ちからなの？

鶴田 あゝ「雲流るる果てに」ね、別に深いわけがあるのじゃない。演技者は思想を考えてはいけない、これが僕の持論だ。随分戦記に出たためにひどい批判を方々からうけたけど、映画の場合はその責任はスタッフ全部のものだ。しかし「雲流るる果てに」にしろ「日の果て」にしろ、これは納得づくでやったんだから大半は僕の責任だ。それに二枚目にこだわりたくないんだ。二枚目という言葉の意味を納得したくないなあ「日の果て」だってちょっともよごれ役だとは思っていない。

三島 その意味だがね、観客が君にメロドラマや二枚目を希望したら、それも仕方ないじゃないか。人気の上から云っても……。

鶴田 俳優って、人気のあるのがうるさくなった。それだけ批判の対象になることも多いわけだが、不満なのは「日の果て」というような作品に出るとすぐ変にとられることだ。たまたまあのグループは商業会社では仕事の出来ない人たちだった。たゞそれだけのことなんだ。その間にかもし出される雰囲気は、たしかに商業会社に対するレジスタンスがある。しかし僕はそれとは無関係だ。要は役と作品がよければいゝと思うんだがな。その背後のものなんか考えたくない。

三島 どうだろう。たとえばね、ロシアの俳優がファシストを熱演したあまり、逆の効果を観客にあたえたとしたら、くびになるかね。

鶴田 さあ、どおなんだろう。ソ連の方はほとんど知らないなあ。でも、映画にしたって云えると思うんだ。「日の果て」にしろ、「雲流るる果てに」にしろ、あの環境に追い込まれた群衆は描き切れなかった。だから演出者は観客に共感を抱かしめようと決めた主人公だけを追っかけるべきだ。

三島 すると、演出者がくびになるわけか。そんなことも云えるな。すると、何の共感も抱き得ない作品は、演出者自体が自信のある意図がないことになる。

鶴田 そうでしょう。その点ロシアの映画は徹底しているようだ。

三島 君は今後もこんな戦争映画に出るつもりかい？

鶴田 もう沢山だ。ゲップが出ますよ。またか……とね。日米戦はこうして起った……とか、こうして日本は敗れた……といったようないわば、破壊を描く過程はもうすぎたのではないか。これよりももっと、今後の日本に残された問題を追及していくべきでしょう。もっと建設的に、今更勇壮めいた敗戦映画を作ったところで何にもなるわけじゃない。

男の美しさは何か？

三島 僕は、戦争映画をそんな意味で観ている客はごく少ないと思うな。アメリカの西部劇やチャンバラ映画、それよりもレスリングなど眺めているような気分で、戦争場面の勇壮さを楽しんでいるやつの方が多いいんじゃないかい。

鶴田 あゝ、いるでしょう。しかし、西部劇やチャンバラを楽しむ人々がいる限り、チャンバラ映画も必要だと思うが、それならそれで戦争映画も楽しくなくちゃ。

三島 といってやたらに面白い戦争映画が出来ても困るだろう。も一つ戦争映画の魅力といえるのは、あの軍国主義時代のユニフォームへの郷愁だな。

鶴田 そうだ。それは大きいな。人気女優が一人だって出なくても、女性層のファンがわんさと押しかけている。

三島 軍隊だけだよ、男だけの世界は……。暴力とか、規律正しさにひかれるのは、男より女性の方が多い。つまり、男の美しさは、自我の強いところと規律を愛する精神だと云えるんだな。女の美しさは全く個性的だ。隣の人が丸い帽子をかぶったら、私は三角の帽子をかぶろうといった、いかにして他人よりも自分を眼のつきやすいように装おうかと腐心しつづけている。

鶴田 全く金のかゝる競争だな。真知子ショールが流行すると、いつのまにか東京中に真知子が続出するなんて現象もあまり感心しないが、流行への反逆も、また流行の一種だ。頭の髪でも、ショート、カットにすれば活動的かも知れないが、なにも美しい黒髪を切る必要はない。勿論本人にショートが似合うなら仕方ないが……。流行を追ったり、反逆したりするのは、女が自分自身にしっかりした精神内容のない証拠だ。

三島 それはそれでいゝんだよ。女性はそうして美しくなるんだ。僕は流行に敏感なのは悪くないと思う。

鶴田 しかし、それもパツと見てきれい、つき合ってみてきれい、いゝなーと思うと歯が汚れている。もういけない。歯がきたないのは下着が真黒のようにみえるんだ。歯は骨の一種だから、骨の髄まできれいにすべきだ。

三島 はゝはゝは……。骨のずいまでまさか化粧はできまい。女性は化粧や美装で男の眼をひくために、いろいろ嗜好をこらすものだ。その点、男は一人一人眺めたってさして美しいなんて感じない。それだけ普遍的なんだな、男の美しさは。歴史的にみても女の服装は時代とともに変遷しているが、男の服装は変化が少ない。やはり、男の服装はユニフォームが美しい。二百人位ユニフォーム姿の男性をずらりと並べた時など宝塚のレビューの比ではない。美しいよ。数でいくんだな。そこには必ず軍隊とかファシズムが低迷してくる。服従、規律の命令とか……。

鶴田 スポーツ等の格一主義にもいえることだ。集団としての美しさだな。

三島 軍隊が華やかに活動している時は男の美しい時代で、平和な時代は女が美しくなる。しかし男の美しさを望むのも女性だし知らず知らずのうちに、女性は軍隊の賛美者となる。そこに軍隊の生れる原因があるとも考えられる。終戦前、軍の服従、規律が乱れたが、規律のない軍隊なんてすでに崩壊の一步手前と考えてよい。

イデオロギーで飯を喰うのか？

鶴田 然し、僕は保安隊員が歩いているのを眺めただけで、軍国主義が生きかえって歩いているような不安を覚えるんだ。

三島 それは、君が映画の中で特攻隊の飛行服を着けたり、チョンマゲをつけたりするのは、大してかわりはないさ。 Kommunismus を自称しているシンパの連中だってどれだけ強いイデオロギー的な信念をもっているかわかったものでない。イデオロギーに徹し切れたらいいんだが、そこに何らかの疑心があるんだな。とってシンパ的な役割を捨てたら、飯が喰えないからだよ。右翼には理論がない、なんて左翼の連中はいつているが、左翼だってマルクスが理論的な裏づけをしてくれるまでは街頭の暴力団だったんだ。マルクスの理論もいまじゃ、左翼の聖典みたいになっているが、完全な詭弁だらけなものなあ。例えばこの煙草がうまいか、まづいかということだって、左翼理論で説明できるんだから。

鶴田 然し、人間は生きることに何とか理論的な目標とか理念が必要なんじゃないか？

三島 それで現代の文化人は迷っている。でも、理念や目標は人間が後で理論づけたものだ、その証拠に時代とともに異なってきた。とって、なしで生きられるかということ頼りないんだな。金持ちだって資本家だって、自分が金もうけをやる仕事にまで一々日本の再建のためとか理論づけをやってる。

鶴田 他人の手前もあるからだ。

今後の軍隊の理念を探せば

三島 僕は保安大学を見学してもっとも強く感じたのは、やはり国民の手前を繕う理念じゃなかった。隊員が規律正しい生活のなかでも、軍隊生活に励む力づけとなるような理念だ。理念、そうだな、地球に爪跡を残して死にたいとか、何かの価値のために死にたいというような欲求なんだな。昔みたいにお国のために死ねたら問題ないんだらうが、それは崩壊したし、国家観念なんていうものはいまの若い者には全くない。古いものを復活しようとしても無理だ。

鶴田 僕は軍隊が出来たら、昔の軍国主義や国家観念が必ず復活するのではないかと案じて軍備反対を主張してきたんだが、三島さんが古いものが決して復活しないといわれるわけはどういうところから来ているのかな。

三島 ごく小さなゲマインシャフトの中では自分の権利を戦えるが、大きなもののためにはつかめない。歴史的に説明すると、ギリシャのポリス国家は小さかった。山に登って一望の中におさめられた。封建時代になり、王国になると簡単に見渡せないそこで天皇やキングというアナロジーが出来た。現代ではもうアナロジーなんて通用しない。最も健全なのは市民的原理にもとづく相互連帯責任の手段として出来たらいゝんだが、日本には市民的な相互連帯思想の伝統がないんだな。大衆のためとか、国民のためとかいうのも、恐らく駄目だ。

鶴田　すると、新しい愛国心とかいうものでも起らないとなくなくなる。

三島　うん。ゲーテの「ヘルマンとドロテヤ」の中で、愛するものを守るために立ちあがった青年たちが出てくるが、そんなものを日本人はもっていない。そこで、日本人の性格から見て、自分よりも上の何か物に価値をおいて、そのために生命を投げ出すか、内輪の愛するもの、親兄弟や恋人たちだな、その人々のために死ぬか、この二つ以外に方法はないだろう。実のところ、僕も迷ってるんだが、近いうちにこれを題材にした脚本を俳優座でやる予定にして、いま執筆中なんだ。それが僕の仕事なんだから。

鶴田　生きるということは大変なことだ。ほんとに……。僕も僕以外の人には出来ないものをやっていきたいとたえず思ってるんだ。それがどういう形で現れるかは、まあ今後の問題でしようか……。ちょっとした着想から、「転落のドラム」というシナリオの構想をまとめたんですがね。

三島　どんな題材なの？

鶴田　太鼓叩きなんだ。みんなの犠牲になりながら、無我夢中でドラムを叩いている。そのドラム叩きが、遂には手も動かなくなる。しかし、かつて彼を利用した者どもは見向きもしない。これが現実さ。

三島　ニヒリズムだよ。それを超えたところに我々の世代は生きる道を探すんだな。どうだい、こゝらで結論が出たろう。

鶴田　そうだな。話したいことはまだあるけど、結局僕らより若い世代の人々が果たして現代社会のニヒリズムをしっかりと理解しているのかどうか？

三島　その点はひとつ彼らの眞情を聞いてもらうことにしようじゃないか？　実際に徴兵適令期を迎えるのは、今十代の人たちなんだ。

記者　ではそういたします。どうもありがとうございました。